コゼニゴケ目に属し Pelliaceae に近いが，非常に変っているので服部は Makinoaceae を認めたが，近年 R.M. Schuster は前記 Pelliaceae の1亜科にした。近縁種は全く無く，マキノゴケただ1種である。本種の分布については日本国内から沢山の記録があるが，西南日本，太平洋側の低地に多く，日本海側や北日本に少い。日本海沿岸からはごく僅かの記録しか無く，北海道からは1箇所しか知られていない。国外では朝鮮，東支那，台湾に知られていたが，今回フィリッピンとニューギニアを新産地として報告する。ジャバ島やその附近のコケはよく採集されているが本種の記録は無い。調査のゆきとどいて居ないボルネオ，セレベスあたりからは発見される可能性も残っているが，何れにせよ日本から台湾，フィリッピン，ニューギニアと云う分布は面白い分布型である。

□高取治輔画：**彩色写生図日本の薬用植物** Color Atlas, Medicinal Plants of Japan. 1966, 広川書店，A 4 版，15,000 円．薬用植物 113 種を 80 図版に描写した原色図集である。和文と英文の解説を付してあるが，「著」とせず「画」としたところに，博士の描画に対する自信がうかがわれて興味が深い。その自信のとおり，色彩図は刻明かつ正確で，立派なものである。専門の絵画きでないから，画きすぎた感じがないでもないが，しかしごまかしのない正直な画であるところに価値があると思う。印刷用紙の色や質，活字インクの色など調和のとれた仕上りで，豪華限定版と銘うっているのは当然であろうが，定価 15,000 円は個人には負担である。二，三気付いたことは，Fig. 3-B のタンポポ *Taraxacum platycarpum* はセイヨウタンポポ *T. officinale* であり，Fig. 21-B のシャクナゲは産地（長崎県八郎岳自生）からみてツクシシャクナゲであろう。また学名で up-to-date でないもの（例えばクズ）がある。巻末に索引が欲しかった。（佐竹義輔）

□ G. Erdtman: **Pollen and Spore Morphology.** Gymnospermae, Bryophyta (An Introduction to Palynology, III). pp. 191, pls. 24. Stockholm. 1965. 9-12 頁は Megaspore と科の ABC 順に花粉の記載，13-82 頁は *Abies* から *Zamia* まで属の ABC 順に花粉の記載，83-91 頁まで Bryophyta の序論，92-156 頁は *Acrocryphaea* から *Zygodon* まで属の ABC 順に胞子の記載，157-182 頁まで関係文献集，183-191 頁は学名索引，最後に pls. 1-24 がついている。Fig. と Plate は精密な美しい顕微鏡写真で十分楽しめる。第 4 巻は Pteridophyta と Angiosperms (additions) を予定。ついでながら日本産の面白い胞子（特にコケ）の提供を Erdtman 博士は希望していられる。またシダやコケの胞子の研究を氏の編集する代表的専門誌 Grana Palynologica に寄稿を歓迎するとのこと（英文または独文に限る）。氏のアドレスは次のとおりである。

Prof. G. Erdtman, Director, Palynological Laboratory, Nybodagatan 5, Solna, Sweden.

（服部新佐）